

そう、道徳は楽しい

「特別の教科 道徳」 アシスト 5



長野県教育委員会

語り合おう 夢・希望



明確な意図に
基づく道徳授業



みんなで作る
道徳授業



価値
理解

人間
理解

他者
理解

自己
理解

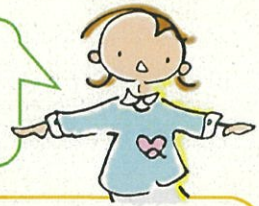
— 目次 —

- P2 道徳科の目標には何が書かれているの？
- P3 道徳性を養うための授業づくりで大切なことは？
- P4 どんな1時間の授業になるのかな？
- P5 道徳科の授業ではどのような評価をするの？
- P7 「道徳の窓」配慮を要する児童生徒への支援について
- P8 <実践報告> A 小学校
- P9 道徳教育を全校の先生みんなで行くには？
- P11 「道徳の窓」すべての児童生徒が安心して対話できるように…
- P12 <実践報告> B 中学校
- P13 内容項目一覧



明確な意図に 基づく道徳授業

道徳科の目標には何
が書かれているの？



道徳科の 学習活動

- ① 道徳的諸価値についての理解を基に
- ② 自己を見つめる
- ③ 物事を（【中】広い視野から）多面的・多角的に考える
- ④ 【小】自己の生き方についての考えを深める
【中】人間としての生き方についての考えを深める

① 道徳的諸価値についての理解

道徳的諸価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものです。

価値理解：内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

人間理解：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考えは一つではない、多様であるということを前提として理解すること。

気持ちのよいあいさつって
大切だね。（価値理解）

でも、朝、自分から進んであ
いさつすることが恥ずかしく
てできないな。（人間理解）



私は、あいさつをすると自分も
気持ちよくなるって思うから、
進んでできるよ。

そういう考え方もあるんだな。
（他者理解）

② 自己を見つめる

人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を自分のこととして感じたり考えたりすることです。これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることでもあります。

③ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

物事を一面的に捉えるのではなく、自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすることが大切です。

④ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにしましょう。それとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにしましょう。

育成すべき 資質・能力

自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きることの基盤となる道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を養う。

明確な意図に基づく道徳授業

道徳性を養うための授業づくりで大切なことはななに？



道徳科の授業づくりで大切なこと

指導の明確な意図をもつことです。

- 1 道徳的価値
 - 2 児童生徒の実態
 - 3 教材の活用
- }を明らかにしましょう。

1 ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき、授業者が明確な考えをもつ。

道徳的価値

2 ねらいとする道徳的価値について、これまで何を学び、今どのような状況なのかを確認し、育てたい子供像を明らかにする。

児童生徒の実態

3 授業者の明確な価値観、育てたい子供像をもとに、教材の活用の仕方を明らかにする。

教材の活用

主題設定の理由

指導の明確な意図をもつ 明確な意図をもつということは、本時の主題設定の理由を明らかにすることです。

明確な意図に 基づく道徳授業

どんな1時間の授業
になるのかな？



道徳科における主体的・対話的で深い学び（例）

<ねらいの明確化>

道徳的価値に根ざした問題意識をもち自分との関わりで捉える
（「問い」をもつ）



○本時にねらう道徳的価値と自分のこれまでの生き方を重ねられるようにしたり，教材に描かれている問題等を投げかけたりしてみましょう。

発問例）「なぜ■■（道徳的価値）は大切なのだろう」

<めりはりのある展開>

① 多面的・多角的に考える（「問い」と向き合う）



○登場人物が道徳的価値に葛藤する場面等について考える場を設定し，児童生徒が道徳的価値の大切さも理解（価値理解）したり，道徳的価値を実現できない人間の弱さも理解（人間理解）したりすることができるようにしましょう。

発問例）「主人公はこのときどんな気持ちだったのだろう」

「大切だと思っても，できないと思ったことないかな」

○ペアや小グループの話合い等をして道徳的価値の感じ方や考え方は様々であることを理解（他者理解）することができるようにしましょう。

② 自分の生き方についての考えを深める（自分の生き方に「問い」をもつ）



○教材の登場人物が葛藤を乗り越えようとする場面について考える場を設定し，児童生徒が道徳的価値の意味や意義を自分の経験やそのときの感じ方，考え方と照らし合わせながら，さらに考えを深めること（自己理解）ができるようにしましょう。

発問例）「それでも■■（道徳的価値）を実現させたものは何か」

○指導の明確な意図をもち，「自分だったら…」と自分との関わりで再考し始めた姿を捉え全体に広げたり；「どういうこと？」等と問い返したりするなどして，児童生徒が本時にねらう道徳的価値の意味や意義についての考えを深められるようにしましょう。

<ねらいに基づく見とどけ>

問題意識に納得解を導く（新たな「問い」を導く）



○導入で共有した問題意識について，振り返る場を設定し，児童生徒が自分の生き方への夢や希望をもつことができるようにしましょう。

発問例）「■■（道徳的価値）とこれからどう向き合いますか」

明確な意図に基づく道徳授業

道徳科の授業ではどのような評価をするの？

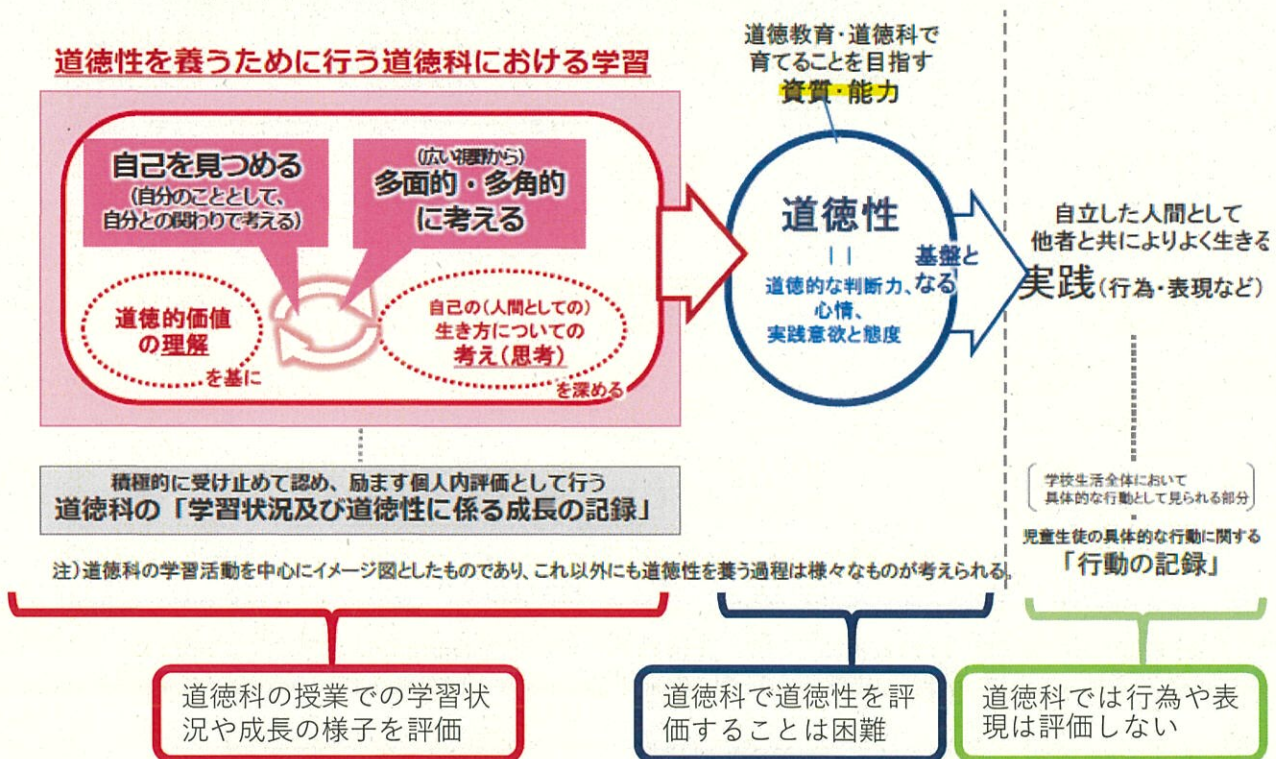


1. 道徳科の評価の在り方

- ① 数値による評価ではなく、**記述式**
- ② **個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまり**を踏まえた評価
- ③ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを認め、励ます**個人内評価**
- ④ 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視
- ⑤ 発達障がいのある児童生徒が抱える**学習上の困難さ**の状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行う
- ⑥ **調査書に記載せず**，入学者選抜の合否判定に活用することがないようにする

参考 「『特別の教科 道徳』指導方法・評価等について（報告）」
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門会議 平成28年7月22日

2. 道徳科の評価のイメージ

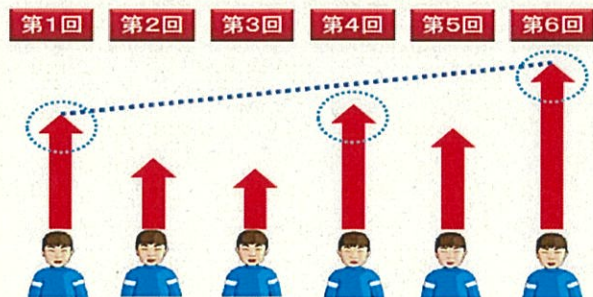


出典：平成29年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）」文部科学省初等中等教育局主任学校教育官 小野賢志氏 講義資料より

3. 「大きくくりなまとまり」を踏まえた評価について

- 一つ一つの内容をどのくらい理解したかという基準で評価するのではなく、**個人の成長に着目**
- 年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、**児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握**

第1回 節度	第2回 生命	第3回 勤労	第4回 誠実
第5回 親切	第6回 勤勉	第7回 自然	第8回 感謝
第9回 規則	第10回 友情	第11回 個性	第12回 公正



個人の目標に向けた学習状況ごとに横並びにして突出したところのよさを認める。

大きくくりなまとまりを踏まえながら、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握していく。

4. 道徳科の授業における児童生徒の評価の視点



他者の考えや議論に触れ、自律的に思考する中で、**一面的な見方から多面的な見方へと発展しているか**

(例)

- ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- 様々な登場人物の立場で考えている。
- 自分の考えと友達のことを比べて考えている。
- 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。等

多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を**自分自身との関わりの中で深めているか**

(例)

- 教材の登場人物に自分を置き換えて考えている。
- 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- 自分だったらどうするかなどを考えている。等

道徳の窓



配慮を要する児童生徒への支援について ~Q&A こんな時 どうする?~



書くことが苦手で、自分の考えや気持ちを文章に表現できないAさんへの指導はどうしたらよいでしょうか。

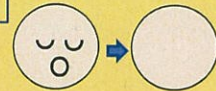


自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手な児童生徒に対しては、口頭で答えることも可能とする等、コミュニケーションの方法を文字に限定しない配慮も必要です。

例1 「顔絵」や「色絵」の活用

低学年の児童であれば、児童に考えさせたい場面を具体的に示し、右のような気持ちを表す「顔絵」や心の色を表す「色絵」を使って、「どうしてこんな気持ちになったの?」と考えを聞いてみます。

顔絵



心の色はどんな色?



例2 教師による代筆

周囲の児童が感想を書いている時間に「書きたいのに書けない」経験が続くと、その他の活動への意欲が低下してしまうこともあります。そんな時は「考えをまとめておいてね」と声をかけ、後で児童から聞き取り、児童の考えを確認しながら教師が代筆します。



教科書を範読していると、『話を聞いていないのかな』と思わせるそぶりを感じたり、違うページを見ていたりする生徒がいます。もしかしたら、何を追求したらよいのか見通しがもてていないのでしょうか?



もしかしたら、文章を目で追うことや、注意を集中させ続けることが苦手なのかもしれません。そのような場合、次のような支援も必要です。

例 どこを読んでいるのか分かるようにする

文章を読む際、指等で押さえながら読むよう促したり、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意する等の支援が考えられます。また、教師の範読の際、「気になったところや、心にひっかかったところに下線を引きながら聞いてください」と伝えてから読み始めると、読み終わった後、ペアやグループでその根拠を伝え合う活動につなげることもできます。

参考資料：「平成28年7月22日「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編」
「文部科学省 海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページCLARINET」

明確な意図に基づく道徳授業

A小学校 実践報告

P D C Aで指導の意図を明確にして授業に臨む、A小学校の取組
T先生（小6担任）の実践

育てたい子供像具現のために（P）
実践（D）
同僚と語り、練り直し（C）
次なる実践（A）
今後の展望を教師自らがもつ（P）

A小学校 道徳授業の「P」

児童生徒が主体的にかかわり、学びが深まる道徳授業とするために、教師が指導の意図を明確にして授業に臨む。

P

T先生の「P」

子供が教材中の人物の心情に自分を重ねて語る授業へ
そのためには、児童観を基に教材の活用の在り方を磨く。具体的には子供が教材と自分とを重ねられる教師の出を大切にする。

主題名：目標達成に向かってくじけず努力する大切さ

教材名：「心をつなぐ音色～ピアニスト 辻井伸行」 で上記Planを実践しよう。

授業実践「D」

教材中の人物の思いと自分とを重ねる発問
「選考に落ちたとき泣かなかったのぶ君の気持ちは？」

D

同僚との授業の省察「C」

同僚：児童の「のぶ君が求めていたもの」という発言を先生が見落とさず授業に位置付けられたらねらいに迫れたのでは？
T先生：ねらいとする道徳的価値を明確にできていないから、子供の語りから子供の思いをとらえられないのか。

T先生の「問い」
子供はのぶ君の思いに重ねて自分を語っていたのか？私はそれをとらえられていたのか？

C

児童の反応・と、振り返り○

- ・次もある、がんばろうという気持ち
- ・のぶ君の求めていたものがあった
- 目が見えないのにピアノを弾けるのぶ君はすごい

同僚と価値観を磨く「C」から「A」へ

子供の語りから、その子がなぜそう語るかを感じ、授業に生かしたい。そのためにはとにかく子供の思いを聴こう。

T先生の手応え
子供の語りを聴いていると、なぜそう語るかをもっと知りたくなった。もっと子供と授業をしていたかったな。

P

A

T先生の授業を終えての「P」

先生方から助言をいただき、道徳授業の楽しさを感じている。指導の意図を明確にしたうえで、聴くことを大切にして、子供と共につくる道徳授業にこれからもチャレンジしたい。

T先生の「A」

主題名：相手の立場に立って親切に
教材名：「心に通じた『どうぞ』のひとこと」で実践しよう。
「思いやりはみえるのか」という問題意識の共有、登場人物と自分とを重ねる発問「おじいさんはなぜ思いやりは見えるのか」

児童の反応・と、振り返り○

- ・おじいさんも昔ぼくと同じような体験をしたから見えるんだ
- 自分は席を譲れないことがあったけど、「ぼく」はすごい。おじいさんに席を譲った「ぼく」のようになりたい。



先生が明確な意図をもって授業に臨むと子供の語りから、道徳性に係る子供の成長がみえ、それが先生の次なる希望につながっていくね。

みんなでつくる 道徳授業

道徳教育を全校の先生
みんなで進めるにはど
うしたらいい？



自校の道徳科を道徳教育の要とするために...

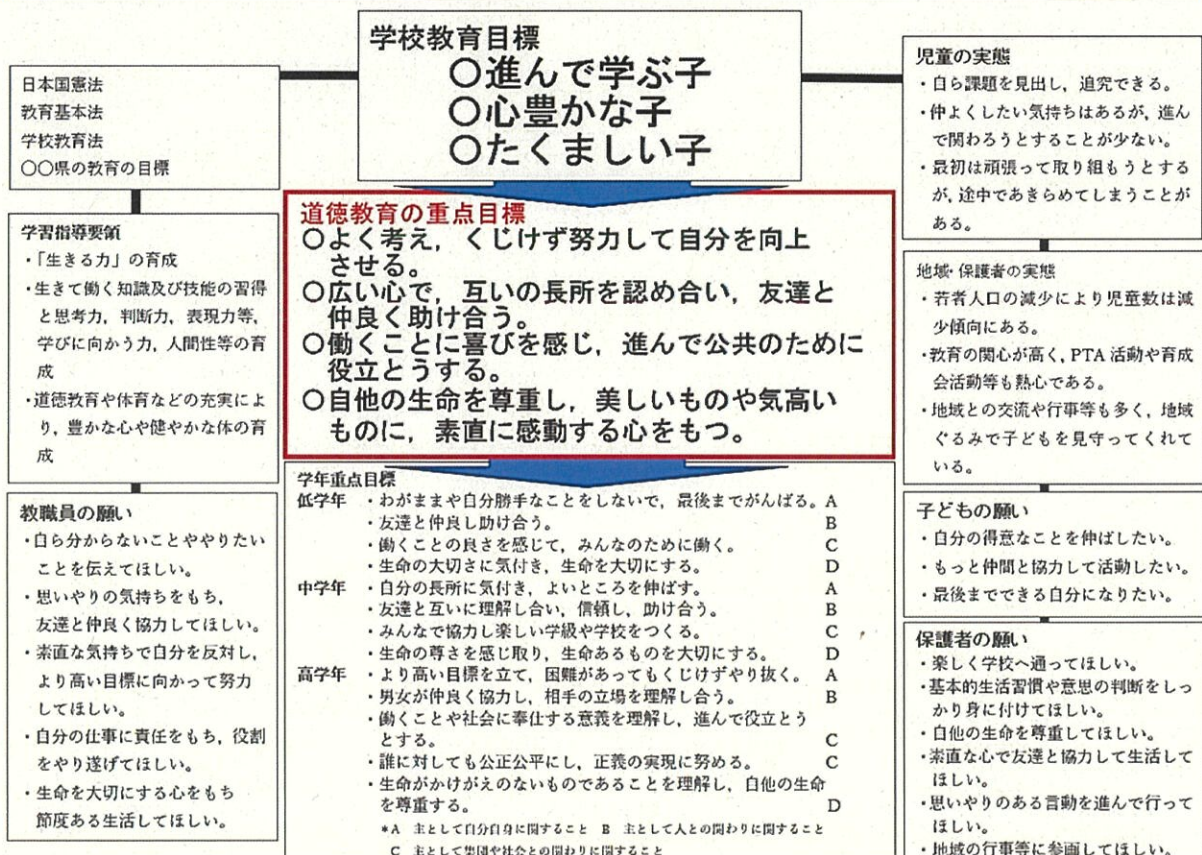
道徳教育の全体計画を作成する

①育てたい子供像を明確にする

→道徳教育の重点目標を設定する

②各学年の重点目標，内容項目の重点を設定する

③道徳科の指導方針を明確にする



軸を明確にします

学校教育目標から、児童生徒の実態・保護者地域の願い、教師の願いを考慮し、道徳教育で育成を目指す子供像を明確にしましょう。



道徳教育の重点目標を具体化するために...

重点的な指導ができるように工夫する

(1) 重点的に指導しようとする内容項目の指導時間数を増やす

- ・一定の期間をおいて繰り返し取り上げる
- ・何回かに分けて指導するなど

【道徳科
年間指導計画】

(2) 一つの主題を2単位時間にわたって指導

(3) 各教科等と内容項目のつながりを明確にする

(4) 特色ある教育活動や豊かな体験活動との関連を図る

【道徳教育
全体計画別葉】

【道徳科年間指導計画主題配列の工夫の例】

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考	
1 学期	4 月	1	1	一日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇〇		
		2	2	安全な生活	A 即度、節制	〇〇〇〇〇		
		3	3	きまりは何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇		
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇 (●●資料集)		短い期間の中に、2回組む
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇〇 (「私たちの道徳」文科省)		
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇〇		二つの教材を用いて、連続する2時間で組む
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇〇		
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴		

【道徳教育全体計画別葉の例】

内容項目	国語	算数	...	学校行事	...
...		
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう (10月)			入学式 (4月) 卒業式 (3月)	
...		
規則の尊重	図書館へ行こう (6月)	折れ線グラフと数角の大きさ (11月)		運動会 (5月) 校外学習 (9月)	
...		



道徳の窓



すべての児童生徒が安心して対話できるように...

令和元年度道徳教育パワーアップ研究協議会 演習・協議より

長野県立大学 グローバルマネジメント学部

准教授 馬場 智一 先生

対話のルール…「すべての児童生徒が自由になるためのルールです」

1. 人をけなすのでなければ、何を言ってもよい（自由と尊重）
 2. 意見が違うところを掘り下げよう
 3. 知識だけではなく、自分の経験にそくして話す
 4. 話がまとまらなくてもよい（ただし長くなりすぎない）
 5. お互いに問いかけるようにする
 6. 発言せず、ただ聞いているだけでもよい（じっくり考えることを重視）
 7. 意見が変わってもよい
 8. 分からなくなってもよい
- ※もちろん、ルールを変えてもよいですし、自分たちで話し合っ決めてもよいです

Q WORD…「問い（疑問形）を互いに出し合えると深まります」

1. 「～はどういう意味ですか」（意味の明確化）
2. 「なぜですか」「どうしてそう言えるのですか」（理由）
3. 「証拠はありますか」「具体例はありますか」（証拠）
4. 「本当にそうですか」「どうしたらそれが本当だと確かめられますか」（真偽）
5. 「それはいつも当てはまりますか」（一般化）
6. 「どうしてそう思ったのですか」（前提）
7. 「その結果どういうことになりますか」（含意）
8. 「もし～だったらどうなりますか」（仮定）

ちょっと一工夫…「コミュニティーボール」

【作り方】①自己紹介しながら毛糸を（ラップの芯などに）巻く

②芯を抜いて、毛糸を結束バンドで留め、輪を切る

【ルール・効果】・持っている人に発言権がある

・次の発言者に下から投げて渡す

・誰が喋っているのかがすぐわかる

・話している時に触るものがあると安心



テーマ「生活記録に残る道徳」

「道徳」を楽しみにする教室をつくりたい。中学卒業時、または大人になったとき、生活記録を見て、あの日の道徳の授業を振り返ってもらえたら、と思っています。

道徳教育推進教師を中心に、
教師みんなで授業づくりに臨む
B 中学校の取組

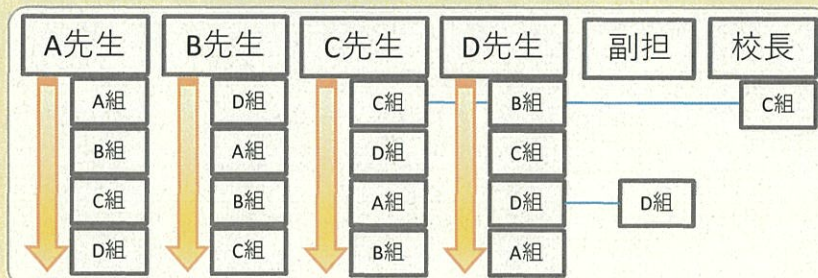
①授業者が各クラスをローテーションする期間を設ける

②副担任、校長先生等も指導に参加

③開発した多様な教材をみんなで共有

(道徳教育推進教師：1 先生)

☆ローテーション授業期間の一例



- 一つの教材を用いて複数の学級で授業を重ねる
- 扱う教材や学習方法は学年会で研修する
- 授業を重ねながら発問や議論の修正を加えていく
- およそ4週で全学級の授業を行なう



副担任の授業

<みんなで関わることでもたらされた成果>

- 学年職員全員による生徒理解につながった
- 職員室で道徳や生徒の姿を話題にした会話が弾んだ
- 教師が自分の得意分野を生かしながら指導を行なうことができた
- 教材や指導法等を共有し、それを基に教員間での研修が進み、道徳を頑張ろうという雰囲気が生まれた

☆生活記録の記述に表れる生徒の育ち

7月3日 テーマ「よいことへのためらい」
(S先生)

道徳の授業はなぜ「よいこと」をすることをためらってしまうのかというテーマでした。「よいこと」を意識せず、当たり前の習慣として行えるようにしたいと思いました。

12月4日 テーマ「生活習慣」 (1先生)

道徳で清原の生活習慣を知りました。普通、強いチームは練習が特別なんだろうと考えてしまいがちですが、清原は長く過ごす生活の時間を大切にしている。それが実を結んだのだと思います。また「生活」を「競技の一部」とし、誰も見ていない中でも当たり前として継続できる選手たちもとてもすごいと思いました。

S先生の授業を受けて「当たり前にすべきことを当たり前にする難しさ」を考え、1先生の授業を受けて、「いいと思うことをいかに習慣化することができるか」と考えを深めることができ、二つの授業を経て学びが深まっている様子がうかがえます。

(ある日の生活記録から)

今日、1時間目に道徳がありました。友情をテーマにしたもので、人の気持ちを考えたり寄り添ったりすることが大切だということ学びました。自分は、少ないですが友達がいれば、とてもありがたいなと思っていますが、時々ひとりになりたいと思うときがあります。友達は自分のことを精一杯助けてくれるのに、自分は少ししか助けられません。されてばかりの自分がものすごく嫌です。どうしたらいいでしょうか。

職員室では先生同士で道徳を語り合い、教室では生徒と共に真剣に考え、こんな心の葛藤を、生徒と共に真剣に考えていきたいです。



内容項目一覧

文部科学省資料より

第3章 特別の教科 道徳の第2に示す内容の学年段階・学校段階の一覧

	小学校第1学年及び第2学年 (19)	小学校第3学年及び第4学年 (20)
A 主として自分自身に関すること		
善悪の判断, 自律, 自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。	(1) 正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。
正直, 誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。	(2) 過ちは素直に改め, 正直に明るいい心で生活すること。
節度, 節制	(3) 健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切にし, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活すること。	(3) 自分でできることは自分でやり, 安全に気を付け, よく考えて行動し, 節度のある生活すること。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付くこと。	(4) 自分の特徴に気づき, 長所を伸ばすこと。
希望と勇氣, 努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。	(5) 自分でやろうと決めた目標に向かって, 強い意志をもち, 粘り強くやり抜くこと。
真理の探究		
B 主として人との関わりに関すること		
親切, 思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。	(6) 相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。	(7) 家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接すること。	(8) 礼儀の大切さを知り, 誰に対しても真心をもって接すること。
友情, 信頼	(9) 友達と仲よくし, 助け合うこと。	(9) 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと。
相互理解, 寛容		(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, 相手のことを理解し, 自分と異なる意見も大切にすること。
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
規則の尊重	(10) 約束やきまりを守り, みんなが使う物を大切にすること。	(11) 約束や社会のきまりの意義を理解し, それらを守ること。
公正, 公平, 社会正義	(11) 自分の好き嫌いとらわれないで接すること。	(12) 誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接すること。
勤労, 公共の精神	(12) 働くことのよさを知り, みんなのために働くこと。	(13) 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働くこと。
家族愛, 家庭生活の充実	(13) 父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つこと。	(14) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活, 集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくすること。	(15) 先生や学校の人々を敬愛し, みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。	(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解, 国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむこと。	(17) 他国の人々や文化に親しみ, 関心をもつこと。
D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること		
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り, 生命を大切にすること。	(18) 生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ, 動植物に優しい心で接すること。	(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り, 自然や動植物を大切にすること。
感動, 畏敬の念	(19) 美しいものに触れ, すすがすがしい心をもつこと。	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び		

小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)	
(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主, 自律, 自由と責任
(2) 誠実に、明るい心で生活すること。		
(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度, 節制
(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心, 個性の伸長
(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	希望と勇気, 克己と強い意志
(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	真理の探究, 創造
(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	思いやり, 感謝
(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	友情, 信頼
(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	相互理解, 寛容
(12) 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	遵法精神, 公徳心
(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	公正, 公平, 社会正義
(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	社会参画, 公共の精神
	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	家族愛, 家庭生活の充実
(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚を持ち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	よりよい学校生活, 集団生活の充実
(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度
	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解, 国際貢献
(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	自然愛護
(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	感動, 畏敬の念
(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	よりよく生きる喜び



「あなた」がいて
「わたし」がいる

写真提供 塩原 孝茂 氏

対話を

長野県教育委員会

学校・家庭・地域で心の教育のあり方や連携について考え合う「豊かな心を育む教育フォーラム」を開催しています。

長野県道徳教育推進委員会

講演会や分科会での話し合いを通して、学校・家庭生活、地域社会における道徳教育の推進を図ります。

おわりに

「特別の教科 道徳」が令和元年度までに全面実施されました。各校の道徳教育推進教師の先生方を中心に、教科化への取組みを進めていただきましたことに感謝申し上げます。今後とも、長野県の児童生徒の道徳性を養うために、さらに伸びやかな「長野県の道徳の実践」となるよう共に歩んでまいりたいと思います。

(長野県教育委員会事務局学びの改革支援課)